

「研究データ利活用協議会 (RDUF)」について

「研究データ利活用協議会」

事務局

研究データ利活用協議会

RDUF

Research Data Utilization Forum

研究データ利活用協議会 (RDUF) について

【目的】

研究データ利活用に関する国内外の事例の共有などにより、我が国における研究データ利活用を推進することに寄与。

【経緯】

- ・ジャパンリンクセンターで行った「研究データへのDOI登録実験プロジェクト」(2014年10月～2015年10月)にて分野を横断した研究データの担い手が集まった。
- ・データ利活用に係る議論をさらに促進するため、2016年6月3日にボトムアップの組織として「研究データ利活用協議会」設立。

【組織】

企画委員会

- ・委員長 武田英明(国立情報学研究所)
- ・副委員長 村山泰啓(情報通信研究機構)
- ・企画委員 他9名

事務局

- ・科学技術振興機構

会員(約130名)

機関会員

【目的】に賛同し、RDUFの活動に貢献する企業又は団体等

- ・科学技術振興機構



- ・国立国会図書館



- ・物質・材料研究機構



- ・情報通信研究機構



- ・国立情報学研究所



- ・千葉大学附属図書館
/アカデミック・リンクセンター



【活動内容】

シンポジウム・研究会

小委員会

MLを介した情報交換 (随時)

- ・国際動向報告
- ・様々な分野におけるデータ利活用の事例紹介
- ・分析報告

「研究データ利活用協議会」の会員

現在の会員数は、約130名！

- ・会費は無料
- ・メーリングリストなどで、研究データの利活用に伴う情報を交換
- ・小委員会活動(後述)に参加可能

会員リストは、以下で公開中！

https://japanlinkcenter.org/rduf/doc/JaLC_rduf_member.pdf

研究者(データ提供者、データ利用者)

大学・研究機関のデータリポジトリ関係者、図書館員、博物館員、出版者、情報流通関係者、情報分析者、ファンディング機関等、様々な職種、研究分野、立場を越えて参加。

平成28年度の活動実績

- ・平成28年6月3日設立
- ・Webサイトやメーリングリストを開設

実施シンポジウム・研究会一覧

項番	活動	開催日時	担当
1	公開キックオフミーティング	7月25日（月） 14:00-17:00	JST
2	研究会（第1回） （RDA Plenary 8 Meeting 等参加報告）	10月3日（月） 14:00-17:30	NDL
3	研究会（第2回） （第2回SPARC Japanセミナー 2016との共催）	10月26日（水） 13:00-17:00	NII
4	公開シンポジウム（サイエンスアゴラ内） 「研究データの利活用の未来－オープンサイエンスの実現手段－」	11月4日（金） 13:30-15:00	JST
5	（「第1回CODHセミナー Big Data and Digital Humanities」後援）	1月23日（月）	NII
6	研究会（第3回） 「科学データ研究会・WDS国内シンポジウム（第6回）」との共催	3月9日（木）10日（金）	NICT

平成29年度の活動実績

- ・ RDUFの運営規則や参加規約が成立 → 協議会としての形が整った。
- ・ 企画委員会が発足
- ・ 小委員会の募集要項が定まり、募集、審査、採択を経て小委員会活動が始まった。
- ・ 小委員会が3つ設立（後述）。

実施シンポジウム・研究会一覧

項番	活動	開催日時	担当
1	RDUF公開シンポジウム ～オープンサイエンスを巡る世界の最新動向～	6月26日（月）13：00-17：00	JST
2	第1回SPARC Japanセミナー2017（共催） 「図書館員と研究者の新たな関係：研究データの管理と流通から考える」	9月13日（水）14：00-17：20	NII
3	研究会（第1回） 「デジタルアーカイブ」と「研究データ」の出会いシンポジウム ～データの保存と活用へ、ライブラリアンとアーキビストの挑戦～	11月6日（月）13：30-17：45	NDL
4	平成29年度名古屋大学宇宙地球環境研究所研究集会 科学データ研究会・WDS国内シンポジウム（共催）	3月8日（木）10：30-17：00	NICT

平成30年度の活動実績

- Japan Open Science Summit (JOSS 2018) に参加。
- 小委員会テーマを募集し、新たに一つの小委員会が設立（後述）
- 既存の小委員会については、2つは2019年3月迄活動期間延長、1つは内容を変更して再設置。

実施シンポジウム・研究会一覧

項番	活動	開催日時	備考
1	Japan Open Science Summit (JOSS 2018)	2018年6月18日～19日	協力機関として参加
2	公開シンポジウム ～研究データ利活用のさらなる促進のために～	2019年2月18日	JST

小委員会活動について

○設置の経緯

研究データ利活用について、Research Data Alliance (RDA) ではワーキンググループを設置し、会員が興味をもったテーマに対して議論し成果物として提言や指針をまとめて公開している。これらの指針・ガイドラインの多くは政策などに実際に反映されている。我が国においても同様に有志が集まり、意見交換を行い、研究データの利活用に向けて提言や指針をまとめる場を設けるために、RDUFに小委員会を設置。まとめられた提言などは活用を図っていく。

○ 活動内容

- ・グループ討議、全体討議、外部発表 等

○ 小委員会タイプ →以下のタイプから選択

- ① 関係者間で利用可能な提言・標準等の作成を目指す。
- ② 提言・標準等をつくるための基礎資料等の作成を目指す。
- ③ ステークホルダーを集めて、課題解決に向けて対策等を話し合う。

○ 成果物 →次のいずれかを作成

- 研究データの利活用を図るために必要となる方針、指針、基準、標準、提言、調査報告など。
- その他、小委員会の活動内容をまとめたもの。

○ 構成

- 委員長（必須）、副委員長（任意）、委員（RDUF会員）

○ 活動期間

- 原則、1年間

○ 小委員会テーマ

→みなさまの提案から採択されます！

- 随時提案受付中！
(審査は6月、12月に実施)

(https://japanlinkcenter.org/rduf/doc/rduf_shoinkai_bosyuyoko.pdf)



活動風景

申請日 平成 年 月 日

RDUF小委員会テーマ提案書(案)

1. 運営区分	3ページの1.3.(3)運営区分 における3区分から1つお選び下さい。
2. テーマ	検討したいテーマを決めて記載ください。 小委員会名になります。(仮称でも構いません。)
3. 目的	本小委員会の活動目的の詳細を記載ください。
4. 成果物	12ヶ月間で得る予定の成果物、アウトカムの概要を記載ください。
5. 成果のインパクト	期間終了後も良いが、活動の成果を社会実装していくための運動やマイルストーンについてや、成果を社会実装したときに得られるインパクトについて、記載ください。
6. 小委員会の活動計画	認定から1年間の活動期間中に実施する ・活動の形態(会議、各種イベント)や開催頻度 ・その間でのマイルストーン ・成果物創出やコミュニティ拡大に向けた方策
7. 初期委員(所属)	RDXF会員 人数は規定しませんが、できるだけ関係するコミュニティのメンバーと組んで、ご応募されることを推奨します
8. その他	自由記述。(今後集めるメンバーの想定など)

A4 1~2枚程度にまとめてください。

提案書の様式

○ 平成29年10月発足の小委員会

● データ管理計画 (H31年3月迄延長)

＜委員長＞ 谷藤幹子 (国立研究開発法人物質・材料研究機構 情報統合型材料開発部門 (MaDIS) 材料データプラットフォームセンター(DPFC) センター長)

＜概要＞

DMPについて、共有可能な基本的考え方を整理し、DMPが扱うべき内容について、標準規格提言として取りまとめる。

● 研究データへのライセンス検討 (H31年3月迄延長)

＜委員長＞ 南山泰之 (公益財団法人東京財団政策研究所)

＜概要＞

研究データの利活用においては利害関係者がデータにライセンスを付与し法的な相互運用性を明確にすることが重要である。本小委員会では研究データにどのようなライセンスを付与するのが適切かを探る。

● ジャパン・データリポジトリ・ネットワーク(JDARN)(H31年9月迄)

＜委員長＞ 絹谷弘子 (DIAS)

＜概要＞

研究データを安定的に公開する為には信頼できるデータリポジトリであることが重要である。我が国のリポジトリ関係者間で共通する問題と国際標準等の先進事例を集め整理する。

○ 平成31年1月発足の小委員会

● リサーチデータ・サイテーション (RDC) (H31年12月迄)

<発起人>

- 能勢正仁 (名古屋大学宇宙地球環境研究所 電磁気圏研究部)
林和弘 (文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター)
高橋菜奈子 (千葉大学附属図書館/アカデミック・リンク・センター)
大向一輝 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系)
住本研一 (国立研究開発法人科学技術振興機構 知識基盤情報部)

<概要>

研究データの引用について、実現を阻む課題を抽出し各種調査を行うことで、実現に向けた基礎的資料を作成する。

Japan Open Science Summit(JOSS2018)開催

【日時】 2018年6月18日（月）～19日（火） <開催済み>

【会場】 学術総合センター 一橋講堂

【参加者数】 535名 （実数）

【主催】 国立情報学研究所、科学技術振興機構、物質・材料研究機構等、文部科学省
科学技術・学術政策研究所、情報通信研究機構、学術資源リポジトリ協議会

【協力機関】 国立国会図書館、研究データ利活用協議会、オープンデータリポジトリ
推進協会、情報知識学会

【後援】 内閣府

【協賛】 シュプリンガー・ネイチャー、エルゼビア、ワイリー

【概要】 日本のオープンサイエンスを推進している、研究者や市民科学団体、図書館
やURAなどの支援組織、ポリシーメーカー、ツールを開発する基盤提供者など、関係
する全てのステークホルダーが一堂に会するオープンサイエンスに関する日本最大の
カンファレンス

JOSS2018開催報告

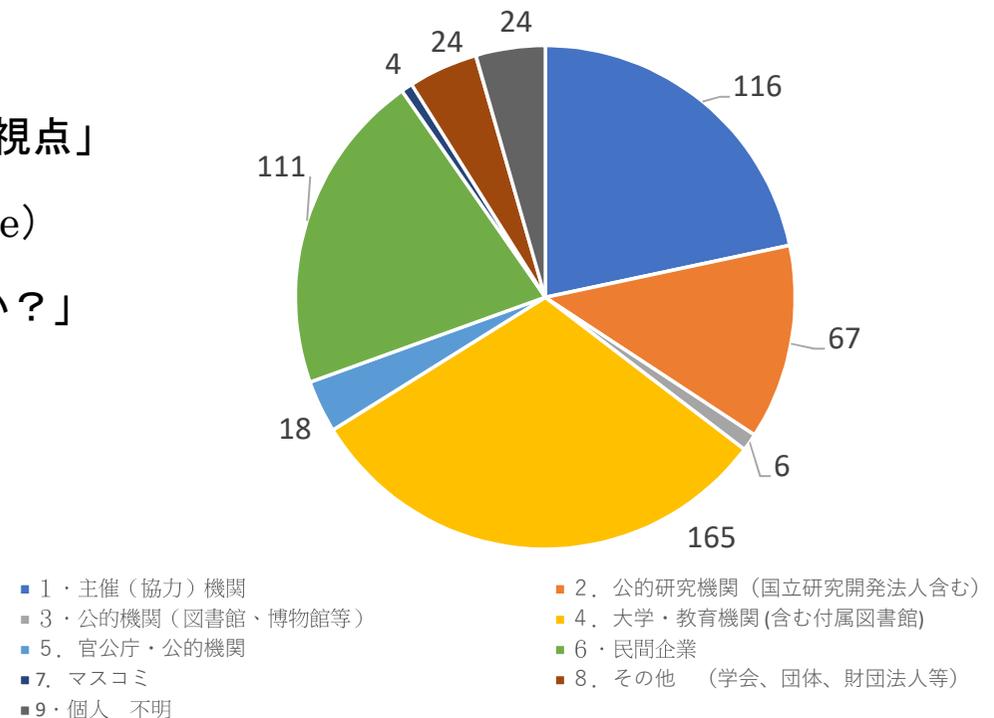
参加者も多く集まり、アンケートにおいても継続しての開催希望が多かった為、JOSS2019も開催予定
(2019年5月27～28日)

18日参加人数 480人
19日参加人数 391人
2日合計 871人
ユニークユーザー 535人

【主なプログラム】

- ・基調講演
「オープンデータとその質保証に関するオーストラリア及び国際的な視点」
Dr. ROSS Wilkinson
(Executive Director of the Australian National Data Service)
- ・特別講演「AMEDのミッション: データシェアリングはなぜ難しいか？」
末松 誠 (国立研究開発法人日本医療研究開発機構 理事長)
- ・パラレルセッション 18セッション
内訳 データ利活用に関わる基準やポリシー関連 6件
分野ごとのケーススタディ 4件
情報技術関連 2件
企業関連 2件
図書館関連 3件
シチズンサイエンス 1件
- ・パネルセッション
主催6機関が、参加者とオープンサイエンスに関して質疑応答

JOSS2018のセクター毎の参加者分布 (合計535名)



大学・教育機関や研究機関が多いが、民間企業も1/4参加。

RDUF Webサイト (https://japanlinkcenter.org/rduf/)



ジャパンリンクセンターでは、2016年6月3日に「研究データ活用協議会」を設立いたしました。本協議会の活動を通じて、わが国における研究データの利活用を推進してまいります。

News

小委員会 2018年12月25日 2018年12月17日に「リサーチデータサイテーション(RDUF小委員会)」の設立が決定しました。

イベント 2018年11月29日 2019年2月18日(月)に RDUF総会およびRDUF公開シンポジウム～研究データ利活用のさらなる促進のために～を開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

小委員会 2018年10月10日 2018年10月1日に平成29年度後発の3つの小委員会について、それぞれ半年間の延長、再設置が決定しました。

企画委員会 2018年9月17日 「RDUF企画委員会」コーナーを新設いたしました。

Topics

RDUF 小委員会 委員募集!

- ・データ管理計画(DMP)
 - ・研究データのライセンス検討プロジェクト
 - ・ジャパン・データリポジトリ・ネットワーク(JDARN)
 - ・リサーチデータサイテーション(RDC)
- これらのテーマに関して、関係者間で利用可能な提案等を作成します！皆さまの参加をお待ちしております。
詳しくは、小委員会コーナーをご覧ください。

入会のご案内

本協議会では、「会員」と「機関会員」の二つの参加区分を用意しております。詳細は下記の資料をご参照ください。

「研究データ活用協議会」入会申込について (PDF: 151KB)

【会員】の場合は、以下のフォームよりお申込ください。なお、入会金・会費等の金銭的なご負担がございます。

[入会申し込みフォームはこちら](#)

Event

RDUF公開シンポジウム～研究データ利活用のさらなる促進のために～

2019年2月18日(月) JST東京本都別館1

過去のイベントの資料などが見られます。

RDUF小委員会に関する詳細は、ここから

入会申込は、ここから

EVENT情報は、ここから



研究データ利活用協議会

RDUF

Research Data Utilization Forum

研究データ利活用協議会」 (RDUF) 入会のご案内

RDUFへ参加しませんか！

本協議会 (RDUF) に入会すると、関連イベントなどの情報をメールでお届けします。

オープンサイエンスの議論でも重要視されるデータ共有・利活用の議論に参加しませんか？

参加は無料、とくに義務などありません。

=> 入会はオンラインで簡単です！

■ 入会・詳細はこちらから

<https://japanlinkcenter.org/rduf/about/index.html>

